大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

<資料>ジャーディン・マセソン会社の経営者群像

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2009-08-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西村, 孝夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00002117

資料

ジャーディン・マセソン会社の経営者群像

西村孝夫

以下の列伝風の叙述は、Jardine Matheson Co., Jardine, Matheson & Co. Ltd. An Outline of the History of a China House for a Hundred Years 1832–1932, Hong Kong privately printed, 1934 その他に依拠しつつまとめて見た。この会社の発展は経営史的に見ても、徒手空拳の私人達が、同族主義(Muckle Hoos Principle)を中心にして巨大なコンツェルンを形成していく過程を示し、極めて興味深い。本格的な研究の手がかりをなすという便宜のためにこの稿を草した次第である。

まずこの会社（前史を含む）のパートナー達と一九〇六年株式会社改組後の取締役達の名を一表にすると、次の通りである。＊印は Muckle Hoos Principle を、〔　〕内は血縁関係を示している。

PARTNERS OF THE FIRMS ANTECEDENT TO JARDINE, MATHESON & CO.

(1) JOHN HENRY COX: d. 1791

(2) DANIEL BEALE; b. 1759; d. 1842.

(3) HOLLINGWORTH MAGNIAC, b. 1786; d. 1867

LIST OF PARTNERS, 1832—1906, AND DIRECTORS SINCE 1906.

(4) ＊WILLIAM JARDINE, 1832—1840〔創始者Aとする〕

(5) ＊SIR JAMES MATHESON, 1832—1842〔創始者Bと

する〕

(6) HENRY WRIGHT, 1835—1836

(7) *ANDREW JOHNSTONE, 1835—1836〔Aの姉 Jean の息子〕

(8) *SIR ALEXANDER MATHESON, 1835—1852〔Bの姉妹 Margaret の子〕

(9) *ANDREW JARDINE, 1839—1845〔Aの兄 David の長男〕

(10) WILLIAM STEWART, 1842—1846

(11) *DONALD MATHESON, 1843—1849〔Bの兄弟 Duncan の子〕

(12) *DAVID JARDINE, 1843—1856〔Aの兄 David の次男〕

(13) *JOSEPH JARDINE, 1845—1860〔同じく三男〕

(14) A.G. DALLAS, 1845—1854.

(15) *A.C. MACLEAN, 1849—1958〔Aの傍系親族〕

(16) *SIR ROBERT JARDINE, 1852—1882〔Aの兄 David の四男〕

(17) *ALEXANDER PERCEVAL, 1852—1864〔Alex. Matheson の妻の親族〕

(18) J.C. BOWRING, 1858—1864

(19) *JAMES MACANDREW, 1859—1861〔Aの傍系親族〕

(20) M.A. MACLEOD, 1858—1859.

(21) JAMES WHITTALL, 1858—1876

(22) *WILLIAM KESWICK, 1858—1912 one of first 3 directors〔Aの姉 Jean の孫〕

(23) *R.A. HOUSTON, 1858—1879〔Bの妻の姉妹の息子〕

(24) HERBERT ST. LEGER MAGNIAC, 1862—1879

(25) BEDWARD WHITTALL, 1864—1875

(26) F.B. BULKELEY-JOHNSTONE, 1867—1886

(27) S.A. GOWER, 1868—1875

(28) HENRY MURRAY, 1868—1871

(29) *WILLIAM PATERSON, 1875—1887〔Aの姉 Jean の孫〕

(30) *JOHN BELL-IRVING, 1876—1891〔Aの兄 David の子の Mary の長子〕

(31) *JAMES J. KESWICK, 1876—1902〔Aの姉 Jean の孫：William Kesw. の弟〕

(32) *JAMES J. BELL-IRVING, 1887—1902〔John B.-I. の弟〕

(33) JOHN MACGREGOR, 1886—1893

(34) HERBERT SMITH, 1887—1893

(35) A.P. MACEWAN, 1894—1901

(36) SIR E.F. ALFORD, 1894—1899

(37) ROBERT INGLIS, 1899—1904

(38) C.W. DICKSON, 1900—1906

(39) *W.J. GRESSON, 1901—1910 one of first 3 directors 〔Aの兄 Dvid の末娘 Elizabeth の孫〕

(40) *HENRY KESWICK, 1902—1924 one of first 3 directors 〔Will. Kesw. の子〕

(41) *DAVID LANDALE, 1902—1921 〔Aの傍系親族〕

(42) W.A.C. CRUICKSHANK, 1904—1908

(43) *SIR ROBERT WM. BUCHANAN JARDINE, 1905—1927 〔Aの兄 David の四男 Rob. Jard. の子〕

(44) JAMES MACKIE, 1906—1910

(45) C.H. ROSS, 1906—1920

(46) C.E. ANTON, 1911—1918

(47) *JOHN JOHNSTONE, 1914—1923 〔Aの姉 Jean の二男John. Jahnstone の子〕

(48) T.S. FORREST, 1918—1920

(49) A. BROOKE SMITH, 1918—1926

(50) *JOHN BELL-IRVING, 1919—1923 〔上記同名者の子〕

(51) *D.G.M. BERNARD, 1919—1928 〔Rob. Wm. Buch.-J. の妻の甥〕

(52) L.N. LEEFE, 1920—1921

(53) B.D.F. BEITH, 1921—

(54) *J.J. PATERSON, 1921— 〔Wm. Paterson の子〕

(55) *R. MEIN AUSTIN, 1923 〔Aの姉 Margaret の娘 Margaret の孫〕

(56) G.W. SHEPPARD, 1925—

(57) *SIR JOHN WILLIAM BUCHANAN-JARDINE, 1927— 〔Rob. Wm. B.-J. の子〕

(58) *R.E. COXON, 1928— 〔James J. B.-I. の妻の姉妹の子〕

(59) *W.J. KEWWICK 〔(39)の長子〕

(60) *JOHN KESWICK 〔(39)の次女〕

以上につき以下順次説明しておこう。

(1) John Henry Cox（一七九一年一〇月没）

ロンドン、ホルボーン区、シューレイン一〇三番戸（103 Shoe Lane, Holborn, London）の James Cox の息子。父 James Cox は音楽時計仕掛（singsongs）製造の元祖で、一七六〇～八八年の間繁昌した。J.H. Cox はカントンにおける唯一の「非免許商人」unlicensed merchant（東インド会社の免許を受けていない私貿易業者）であり、一七八七年頃、'Cox & Beale' という名で、次掲の Daniel Beale とパートナーシップを結んだ。

(2) Daniel Beale（一七五九―一八四二年）

地主 John Beale の子、ロンドン北郊の Edmonton の Millfiedl House に育つ。一七七七～八年、東インド会社船 Royal Charlotte 号の船長書記として勤務し、前記 James Cox と知己となり、一七八七年頃その子 John Henry とパートナーシップを結んだ。プロシア王の領事として任命を受け、一七九一年 J.H. Cox. の死後、David Reid と 'Beale, Reid & Co.' を結び、一七九七年まで中国に滞在した。この頃、既に後出マニアック家との接触は始まっていた。

彼の妻は、一六八六年イギリスに来住帰化したユグノー教徒のバルボット家の出身で、この家はインド製品の輸入業者であった。彼の二人の息子、ダニエルとトーマス・バルボットはそれぞれ中国に赴き、中国貿易に従事した。

(3) Hollingworth Magniac（一七八六年四月一五日―一八六七年三月三一日）

十八世紀にロンドンの Clerkenwell に移住したユグノー家の出身 Francis Magniac の第四子として生まれた。兄 Charles の創設した Magniac & Co. のパートナーとして中国で一八二七年まで働いた。帰国後、John Abel Smith, Oswald Smith, Thomas Charles Smith と共に Magniac, Smiths & Co. を創設した。彼の第二子 Herbert St. Leger Magniac（後出）は後にジャーディン・マセソン会社のパートナーとなった。

(4) William Jardine（一七八四年二月二四日―一八四三年二月二七日）

スコットランドのダムフリース州ロックマーベン教区のブロードホルム（Broadholm, in Lochmaben Parish, Dumfriesshire）の Andrew Jardine の次男として生まれた。医学を修めた後、一八〇二年に東インド会社貿易船の船医として東洋に初めて赴いた。一八〇三―四年 "Burnswick" 一八〇五―一四年 "Glatton" さらに "Windham" の勤務につき、一八

一七―一八年は殆んどイギリスと大陸で商取引に従った。一八一八年一一月一四日には新造船 Thomas に関して、かねて取引関係のあったロンドン商人 Wedding (Weeding とも) 及びボムベイの Framjee Cowasjee と組合を結んでボムベイに赴く契約を結んだ。一八一八年一二月にはイギリスを出発した。

彼はマカオおよびカントン（当時中国ではヨーロッパ商人は一〇月―翌三月のみカントンに滞在を許され、後の期間はマカオに住んだ）における商人であったとか、あるいは彼が知り合った Hollingworth Magniac がその中国での事業に加入を勧めたとか諸説があるが、とにかく一八二三年には既に中国に住み、一八二六年にはマニアック・アンド・カムパニーのパートナーとなっていた。

こうして一八三二年に後出の James Matheson と共にジャーディン・マセソン会社を創立したのである。彼は一八三九年一月二六日に中国を去り（林則徐はこの鉄頭の老鼠 Iron-headed old rat の追放を要求した）、一八四〇年退社した。四一年には議会に出、四三年未婚のまま死没した。

(5) Nicholas James Sutherland Matheson（一七九六年一一月一七日―一八七八年一二月三一日）

スコットランド北部 Sutherlands shire の Lairg 付近に、Donald Matheson の子として生まれた。エディンバラの高等学校および大学を終えた後、一八一三年頃カルカッタの叔父の事業、Mackintosh & Co. に勤務することになった。しかし仕事の上での失敗があったので、一八一八年頃には中国に赴いて貿易事業をやることとした。ジャーディンと知合いになったのは、これ以後である。一八一八年にはカルカッタの Robert Taylor と提携した。

一八二三年には中国においてデンマーク領事として定住し、一八二六年には、スペイン商人 F.X. de Yrissari と共に Yrissari & Co. を組織したが、一八二七年同人が死亡したので、甥 Alexander Matheson と Matheson & Co. を組織し、翌二八年 Magniac & Co. に参加した。

一八二七年彼は "Canton Register" (1827–1843) を創刊して、自由貿易商人の声を代弁した。一八三二年は前記の如く、ジャーディン・マセソン会社の創設者となった。三五―六年一時帰国しただけで、一八四二年まで中国に滞在した。帰国後死亡したウィリアム・ジャーディンの後を承けて一八四三―七年の間議会に出た。一八四三年 Michael Menry Perceval の娘 Mary Jane と結婚したが、子供のないまま死

没した。

(6) Henry Wright

一八二六年マニアック・アンド・カムパニーに協力し、一八二九年にはパートナーの一人となった。一八三五年にはジャーディン・マセソン会社のパートナーとして Andrew Johnstone, Alexander Matheson と共に参加した。一八四一年には退社した。八四年にはロンドンに住んでいた。

(7) Andrew Johnstone (一七九八年—一八五七年四月二七日)

ウィリアム・ジャーディンの姉 Jean と David Johnstone との間に生まれた。一八一四—六年エディンバラ大学で医学を修め、東インド会社船の船医となった。一八二二年には "Scaleby Castle" 一八二四—九年には "Buckinghamshire" に乗っていた。一八二四年以来自分の勘定で広い取引を行なっていたが、ジャーディン・マセソン会社とも取引関係があった。

一八三一年頃船医を辞め、三三年四月には中国に来住し、三五年二月二〇日にジャーディン・マセソン会社のパートナーとなった。しかし三六年四月には帰国し、五七年未婚のまま死没した。

(8) Alexander Matheson (一八〇五年一月一六日—一八八六年七月二七日)

ジェームズ・マセソンの姉妹マーガレットと John Matheson との間に生まれた。一時インドに在って、ロンドンの Lyall Brothers & Co. と提携した Lyall, Matheson & Co. のパートナーとなった。彼の姉妹の一人は Charles Lyall と結婚した。一八三五年二月ジャーディン・マセソン会社のパートナーとなり、一時(一八四一年)帰国したが、四二年以来五二年退社するまでこの会社の社長であった。一八四六年には中国を去り、四八年にはロンドンで Magniac, Jardine & Co. が失敗した後を受けて、Andrew Jardine, Alexander Matheson, Hugh Mackay Matheson と共に Matheson & Co. (working partner として William Fraser) を設立した。このパートナーシップの目的は Jardine Matheson & Co. (カントン) および Jardine, Skinner & Co. (カルカッタ) の代理業務にあった。

一八四八年にはイングランド銀行の取締役となった。そして四七—八四年まで議会に選出された。彼は生涯に三度結婚した。

(9) Andrew Jardine (一八一二年七月二三日—一八八一年

一一月一日）

ウィリアム・ジャーディンの兄 David の次男であった。一七才の時学校を卒え、三二年カントンに行ったが、病を得て三六年帰国した。しかし三七年一二月には再び渡来し、一八三九年一月一日ジャーディン・マセソン会社のパートナーとなった。

一八四三年中国からスコットランドに帰り、一八四五年六月三〇日退社（六月三〇日退社が多いのは、会社創立の一八三二年七月一日を考慮に入れてであろう）した。そして四八年以来、その死に至るまで Matheson & Co. のパートナーであった。未婚のままであった。

(10) William Stewart（一八四六年九月一〇日死没）

Andrew Johnstone の親友 James Hope Stewart の息子で、一八三五年カントンに赴き、四二年会社のパートナーとなったが、四六年現地で病死した。

(11) Donald Matheson（一九〇一年二月一九日死没）

ジェームス・マセソンの兄 Duncan の長子で、エディンバラの高等学校を出て、後カントンに赴き、会社の助手となり、四二年一時帰国の後、翌年再び中国に戻り、四三年パートナーとなった。一八四九年には中国を去った。そして結婚している。

(12) David Jardine（一八一八年三月三一日—一八五六年一〇月二二日）

ウィリアム・ジャーディンの兄 David の五男、その従兄弟の David Jardine と共に私教師について学び、一八三五年ロンドンに出て Thomas Styan & Sons の簿記係となったが、この間に茶貿易の方法を学んだ。三三年には中国に渡り、四三年会社のパートナーとなったが、最後には社長となった。五三年船の難破で九死に一生をえた。

(13) Joseph Jardine（一八二二年九月一八日—一八六一年一月一一日）

前記(12) David の弟で六男。一八三七—八年 Merchiston School で、兄弟 Robert および従兄弟 John Johnstone とともに学び、一八四一—三年ロンドン、四三年には中国にあった。四五年七月会社のパートナーとなり、五一年には帰国している。

(14) Alexander Grant Dallas（一八一八年—一八八二年一月三日）

一八四五年七月にはパートナーとなった。当時は他のパートナーとしては Alexander 及び Donald Matheson そして

David 及び Joseph Jardine であった。一八四七年には上海にあり、一八五四年六月三〇日には退社していると思われる。上海支店の代表として、上海港の発展に尽力した。退社後は投資先であったサン・フランシスコに一時いたことがあった。

(15) Alexander Campbell Maclean（一八九四年死）

一八三九年カントンの Eglinton, Maclean & Co. のパートナーとなり、後一八四五年会社のパートナーとなって、一八五七年六月三〇日退社した。その息子 Hector Coll Maclean は一八五五—九四年の間会社に加入した。一八九四年ホンコンにて死没。彼の娘は会社の買弁であった（一八八〇—一九〇〇年）Rober Ho Tung と一八五七年に結婚している。この人は香港大学の強力な後援者であった。

(16) Robert Jardine（一八二五年五月二四日—一九〇五年二月一七日）

ウィリアム・ジャーディンの兄 David の四男で、一八四三年ロンドンに赴き、Magniac, Jardine & Co. の事務員となり、一八四八年ハムブルグに滞在の後、一八四九年五月一七日中国に到着、その後一八六〇年まで住んだ。会社のパートナーとなったのは一八五二年七月一日、退社は一八八二年であった。彼は会社及びロンドンの Hardine & Co. の社長を歴任した。そして一八六五—七四及び一八八〇—九〇年下院議員となった。一八六七年マーガレットと結婚した。

(17) Alexander Perceval（一八二一—一八六六年五月八日）

Alexander Perceval の三男、ジェームズ・マセソンの妻 Mary Jane が M.H. Perceval の娘であったのでその親族ということになる（但し Alexander との関係不明）。一八四六年頃中国に渡り、五二年七月一日パートナーとなった。ホンコン立法参事会員(a member of the Legislative Council of the Colony of Hong-Kong) となった。一八六四年六月三〇日退社した。一八五八年結婚し、二男児をもうけた。

(18) John Charles Bowring（一八二一年三月二四日—一八九三年六月二〇日）

一八四八年末中国に行き、五四年七月一日パートナーとなった。イギリス全権大使 John Bowring の長男である。一八六四年には帰国していた。

(19) James MacAndrew（一八三五年—一九〇二年七月六日）

William Duncan MacAndrew の長男。一八四七年リヴァプールの R. Semple & Co. に雇われ、後 Alexander Matheson との約束によって一八五八年七月一日から会社のパートナーとなった。一八五六年帰国し、結婚した。

(20) Aalcolm Anderson Maclęod

一八五八年七月一日以来パートナーとなる。一八五九年五月妻を伴ない帰国した。

(21) James Whittall（一八二七年五月二〇日―一八九三年一二月一八日）

James Whittall の息子。一八六一年会社のパートナーとなる以前から（五六年から）会社の仕事を代理していた。一八七六年退社。

(22) William Keswick（一八三四年―一九一二年三月九日）

ウィリアム・ジャーディンの姉 Jean の子である Margaret と Thomas Keswick との間に生まれた。一八五五年中国に赴き、一八九〇年には日本に滞在中、一八六二年に会社のパートナーになったらしい。ホンコン立法参事会員でホンコン総領事となった。一八八二年にはロムバード街に住んだが、再度中国に行き、一八八九年再帰国して Matheson & Co. のパートナーとなった。一九〇六年会社が株式会社に改組された時、最初の取締役の一人は彼であった（他は William Jardine Gresson, Henry Keswick)。一八九八年サリー州の知事、一八九九年から下院議員となった。彼の弟 John Johnstone Jardine Keswick は Jardine, Skinner & Co. Calcutta のパートナーとなった。

(23) Robert Aleaxander Houstoun（一八三八年―一八七九年一〇月三日）

Alexander Houstoun とジェームズ・マセソンの妻 Mary Jane の姉妹 Ann Caroline との間に生まれた。彼の兄弟 Wallace Charles Houstoun はAlexander Matheson の娘と結婚している。一八五八年あるいは五九年に会社のパートナーになったと思われる。

(24) Herbert St. Leger Magniac（一八三〇年―一八七九年二月一九日）

Hollingworth Magniac の次男。一八五八年渡支、六二年会社のパートナー、一八七九年には退社している。

(25) Edward Whittall（一九〇〇年四月一四日死没）

前出 James Whittall の兄弟。一八五六年会社に関係し、六四年七月一日より七五年まで会社のパートナーとなった。この後は日本に定住し、自分の計算で取引を行なった。一九〇〇年横浜で死没。

(26) Francis Bulkeley-Johnson（一八二八年―一八八七年一月）

一八六一年頃会社に参加して、一八七〇年には上海にあり、

八一年ホンコン立法参事会員となり、八六年退社し、翌年死亡した。

(27) S.A. Gower

一八五九年五月頃貿易検査官 (Inspector of Trade) として中国に行き、会社に参加し、六八—七五年の間パートナーであった。

(28) Henry Murray

一八六八—七一年頃までパートナーであった。

(29) William Paterson (一八四二年—一九一四年二月一七日)

ウィリアム・ジャーディンの姉 Jean の娘である Mary Johnstone と John Paterson との間に生まれた。中国に行く前、リヴァプールの茶商の手伝いをしており、一八七〇年頃には福州に、後上海にいた。一八七五—八七年の間会社のパートナーとなった。一八八四年には帰国し、前出 William Stewart の娘と八六年結婚した。その子 John Johnstone, Robert Jardine, Edward Alford は、それぞれ Jardine, Matheson & Co., Jardine, Skinner & Co. に加入している。

(30) John Bell-Irving (一八四六年二月二日—一九二五年七月三〇日)

ウイリアム・ジャーディンの兄 David の娘 Mary と John Bell-Irving との長男。一八七二年に中国に赴き、七五—九一年まで会社のパートナーになった。一八八九年帰国した。その子 John は会社の取締役になった。その兄弟も、それぞれの会社に関係をもっている。

(31) James Johnstone Keswick (一八四五年—一九一四年一二月二六日)

前出 William Keswick の弟。一八七〇年か七一年に中国に行き、七五年滞日、一八七六年—一九〇二年の間パートナーとなった。一八九六年には帰国していた。

(32) James Jardine Bell-Irving (一八五七年一二月一四日生れ)

前出 John Bell-Irving の兄弟。一八八一年中国に行き、八七年会社のパートナーとなり、一九〇二年帰国までその地位にあった。ホンコン立法・行政参事会員、香港上海銀行の頭取をかねた。

(33) John MacGregor (一八四一年—一八九三年一一月七日)

一八六九年頃会社の簿記係として香港に行った。一八八六年パートナーになった。上海工部局参事会長 Chairman of the Shanghai Municipal Council となり、一八九三年上海で死亡した。

(34) Herbert Smith（一九〇四年六月二九日死没）

一八六八から九二年まで会社に関係した。最初は一八八四年輸入部の反物部にあり、八七—九三年まで上海にパートナーとして勤務した。九三年帰国して、Matheson & Co. に加入した。

(35) Alexander Palmer MacEewan（一八四六年五月—一九一九年三月）

一時中国の Holliday, Wise & Co. のパートナー、後一八九三年に会社のパートナーとなり、一九〇一年までそのまま留った。

(36) Edward Fleet Alford（一八五〇年—一九〇五年三月一八日）

一八六七年会社の使用人、九四—九九年の間パートナーとなった。九六—九年の間上海商業会議所の会頭（Chairman of Shanghai General Chamber of Commerce）であった。九九年帰国。

(37) Robert Inglis

一八八二—四年漢口、八八年天津、八六—九〇年北京の代理商であったが、一八九九—一九〇四年パートナーとなった。一九〇三年一二月帰国。

(38) Charles Wedderburn Dickson（一八六三年二月二三日生）

ウィリアム・ジャーディンの姉 Jean の曽孫に当たる。一八八四年中国に行き、一九〇〇年パートナーとなる。香港立法・行政参事会員となる。一九〇六年帰国した。

(39) William Jardine Gresson（一八六九年一月一一日—一九三四年一月一〇日）

ウィリアム・ジャーディンの兄 David の娘 Elizabeth の孫に当たる。一八八九年一二月二四日香港に到着、九五年には横浜、九七年香港に戻り、一九〇一年会社パートナーとなった。ホンコン、上海の政治的要職をも兼ねた。一九一〇年帰国した。

(40) Henry Keswick（一八七〇年〔上海〕—一九二八年一一月二九日）

William Keswick（前出）の息子。ケムブリッヂ大学卒業後、一八九三年ニューヨークの会社支店に行き、九五年中国に戻り、一九〇二—二四年パートナー及び取締役となった。香港上海銀行の頭取その他を兼ねた。一九一一年五月帰国、第一次大戦に参戦し、また下院議員となった。

(41) David Landale（一八六八年八月六日生）

学校卒業後、銀行勤務を経て、一八九〇年会社に関係、一九〇二年会社のパートナーとなったが、後一九二一年まで取締役を勤めた。一九〇七—一〇年上海工部局参事会長となり、また香港立法・行政参事会員ともなった。一九一九年帰国して、Matheson & Co. の取締役となった。その長男は会社に勤務する。

(42) William Arthur Carruthers Cruikshank（一八六〇年一一月一八日—一九二七年一一月一九日）

一八八二年中国に行き、広東、汕頭の代表、後、保険業務部をつとめ、一九〇四—八年パートナーとなった。

(43) Robert William Buchanan Jardine（一八六八年一月二一日—一九二七年一月三〇日）

Robert Jardine の息子。一九〇五年父の後をついで、社長となる。一九〇六年の改組後も社長であった。

(44) James Mackie（一八五八年—一九一〇年）

Beith, Stevenson & Co., W. & C. Dunlop などで勤めた後、一八八一年会社に入り、一九〇六年取締役になった。上海で死没（一九一〇年の三月か四月?）

(45) Charles Henderson Ross（一八六四年—一九一九年一一月二六日）

インドに行き、一八九五年会社に入り、一九〇六年パートナーとなった。一九一三年帰国し、Matheson & Co. に参加した。

(46) Charles Edward Anton

スコットランド系。父はロンドン穀物取引所の取引員。Gray, Dawes & Co. に勤めた後、一八八四年中国に行って会社に入り、一九一〇年取締役となり、一九一八年退社した。上海工部局参事会員ならびに香港立法参事会員を兼ねた。一九一九年帰国した。退社後ほぼ一年上海の中国関税改定委員のイギリス側代表を勤めたことがある。

(47) John Johnstone（一八八一年三月三一日生）

John Johnstone の孫。イートンで教育を受けた後、一九〇二年に中国に赴き、一九一四年会社の取締役になった。上海工部局参事会・香港立法参事会の会員。また上海国際商業会議所会頭、上海英中クラブの会長。一九二一年スコットランドに帰国。

(48) Thomas Shaw Forrest（一九二五年一一月一〇日死没）

グラスゴーの羊毛仲買人の息子。簿記係としての経験を経た後、一九一八—二〇年会社の取締役となる。

(49) Alfred Brooke Smith（一八七四年一一月三日生〔横

浜)

一八九〇年より Findlay, Richardson & Co. に七年間勤務した後、九七年会社の輸入部及び紡績部に助手として入り、一九〇一—七年同部主任、一九〇八—一八年同じく主任、一九一八年五月一日取締役、一九一九—二六年上海の取締役、一九二四—五年専務取締役となった。一九一九年より上海国際租界工部局参事会員及びその会長を務めた。一九二六年四月三〇日退社。

(50) John Bell-Irving (一八八八年一月三日生)

John Bell-Irving の息子。ウェリントンで教育を受けた後、一九〇九年中国に行き、一九一九年から二二年まで取締役となった。

(51) Dallas Gerald Mercer Bernard (一八八八年三月二二日生)

英海軍々艦 Britannia に勤務の後、一九一一年会社に入り、一九一八年取締役となった。香港立法・行政参事会員、香上銀行頭取。一九二八年帰国して、Matheson & Co. Ltd. の取締役となった。

(52) Lawrence Noel Leefe (一八七二年一二月一七日)

Imperial Insurance Co., Ltd. に勤務のため上海に赴き、一九〇六年会社に入社、一九二一年帰国し、Matheson & Co. Ltd. の取締役となった。

(53) Benjamin David Fleming Beith (一八八四年五月五日生)

エディンバラ・ケムブリッヂで教育を受けた後、一九〇六年香上銀行に入り、一九〇七年には会社に入った。一九二〇年取締役となる。

(54) John Johnstone Paterson (一八八六年一〇月二六日生)

William Paterson の息子。一九〇八年中国に赴き、一九二一年取締役となる。

(55) Reginald Mein Austin (一八八八年一二月九日)

一九一二年中国に行き、二三年取締役となった。

(56) G.W. Sheppard (一八六五年六月一日生)

一八八六年上海に行き、会社の傘下の Indo-China Co. に勤務して中国各地を歴任し、一九二五年会社の取締役となった。一九三二年五月中国から帰国した。天津工部局参事会員ならびに会長、後、上海工部局参事会員を兼任。

(57) John William Buchanan-Jardine (一九〇〇年三月七日)

Robert W. Buchanan-Jardine の息子。一九二七年会社の役員となる。

(58) Raymond Ernest Coxon（一八九二年一〇月一二日生）
一九〇〇年三月会社に入り、ニューヨーク、上海を歴任、一九二八年取締役となった。

(59) W.J. Keswick
Henry Keswick の長男、横浜生れ。会社の社長及びマセソン会社（ロンドン）の社長となる。

(60) John Keswick
Henry Keswick の次男、会社社長及びセソンの取締役。

（付記、文部省科学研究助成補助金による研究の一部である）